

## 新年町長に聞く!



1月号発行にあたり、現在進行中の町の施策や今後の方向性などについて、大西勝也黒潮町長に話を聞きました。

**広報** まずは、防災対策からお伺いします。

**町長** 昨年3月31日の南海トラフ巨大地震新想定(黒潮町は全国最大の34メートルの津波高)を受け、全庁的に防災対策を最重要課題として取り組んできました。職員地域担当制を導入し、昨年5月以降、町内各地域で約180回防災協議を行いました。5000人を超える住民の皆さんに参加いただきありがとうございます。現在、各地域の避難計画の策定を進めています。

すが、今年2月以降はさらに細かく地域に入り、精度の高い避難計画を策定する予定です。

**広報** 今年の防災対策は?

**町長** これまでは、ハード面の整備と情報収集が主でしたが、今年は、ソフト面の地域の防災教育に移行していきます。有識者の指導のもと、地域特性に合わせた、効果的なプログラムを作りたいと思います。

**広報** 今後の方向性は?

**町長** 避難道・避難場所

の整備や防災教育はあくまで手段であり、目的は一人の犠牲者も出さずに次の南海地震を乗り切ることです。そのために、昨年から①職員地域担当制、②防災に特化した行政組織(情報防災課・南海地震対策係の設置)、③町・県・国の防災人的ネットワーク(県・国へ町職員が出向)などの体制整備に取り組んできました。行政主導には限界がありますので、住民の皆さんと一緒にやることが大事です。引き続き、ご協力をお願い

いたします。

**広報** 続いて、高齢者福祉について教えてください。

**町長** 昨年6月、北郷地域に町内2カ所目となる「あつたかふれあいセンター(以下「あつたか」)を開設しました。今後、数年かけて町内数カ所に開設し、黒潮町に新たな「福祉ネットワーク」を構築します。「あつたか」を拠点に、住民に近いところでリアルタイムに情報収集することで、行政施策にスピーディーに反映することができると考えています。また、それぞれの「あつたか」にサテライトを設ける予定です。

**広報** 国民健康保険事業でも新たな取り組みがあるそうですね。

**町長** 今年度「健康増進計画」を策定しています。その中に「医療費適正化検討委員会」を設けました。国保税が高い、国保運営が厳しい、となると、出(し)を減らすしかありません。これまでも、健康づくりや特定健診の受診率アップに取り組んできましたが、他にも医療費を抑制するためにできる努力があるのではないかと、1年かけて幡多医師会と話をしてきました。

例えば、ジェネリック医薬品を使う、まずかかりつけ医を受診し必要に応じて高度医療機関(けんみん病院など)で検査を受ける、などです。今後も、医師にも意見を聞きながら、医療費の適正化に向けた手法を検討していきます。

**広報** 産業振興については、どのような取り組みがありますか?

**町長** 「農業公社」は、今年4月の設立にむけて準備を進めています。黒潮町の農業公社は、施設園芸の新規就農者を輩出し続けていくことに特化します。公社で2年間研修した後、独立、またはさらに2年間公社にて農業を行うことで、施設園芸の担い手を着実に育成していく計画です。また、漁業振興については、今年度より、佐賀漁港に水揚げしたカツオの水揚げ手数料に対して1%キックバックする「水揚げ奨励金」制度を設けました。また、この他にも活餌(かっじ)イワシや冷蔵庫の整備など、佐賀漁港への水揚げ促進を図るさまざまな取り組みを行っています。

**広報** 最後に一言!

**町長** 今年も住民の皆さんの声を聞きながら取り組んでいきます。

